

121120 ジョロウグモの産卵

今回は「**ジョロウグモ**」の**産卵**がテーマです！

以前、ジョロウグモの小さな が、大きな の脱皮直後に交尾するという、命がけ？の行動を報告しました。【 <http://www.pref.osaka.jp/attach/15501/00099022/121003kumo.pdf> 】

9～10月頃に交尾を終えた は、もう“用済み”で既に死に絶えてしまったのでしょうか、の作る大きな網(クモの巣)の上にその姿を見ることがなくなりました...

一方の は、というと...

大きなお世話なのでしょうが、“もうそれ以上食べない方がいいのでは...?”と云いたくなるような、超大きなお腹になっているにもかかわらず、まだ網の中央で獲物を待ち受けていたりするのです...

でも...

同じ でありながら、すごくスリムな個体もいるのです。

栄養不足で産卵できないのだろうか？、との心配は無用です！

よく観察すると、黄色や赤色の派手なお腹の皮に“しわ”が見えますので、きっと産卵後の個体なのでしょう。

こんなにスリムな体型なので、2度目の産卵をすることはないでしょうが、再び網の上で残り少ない余生を過ごしているのかも知れませんね。

このように、産卵後の個体が再び元の網の所へ戻ってきたり、別の場所で新たに網を張ったりすることもあるようですが、その一方で、産み付けた卵(「卵のう」という袋の中に卵が入っています)のそばで、飲まず食わずで見守り、やがて力尽きて絶命する個体もあるのです...

そのような個体を、南河内の里山で探してみました。

写真 : 産卵前のジョロウグモの

何とも派手で豪快な体格ですね...

写真 : 産卵前

こちらの個体は、網にかかった「ツマグロオオヨコバイ」を食べていました...

写真 : 産卵後

超スリムな体型になりました。

背後の樹皮には、白い糸で包まれた「卵のう」(卵が入っている袋)が見えます。

産卵直後なのか、産卵後に卵を守っているのかはわかりません...

写真 : 絶命...

産み付けた卵の前で絶命していました...

死してなお、卵を守り続けている姿に感動...

写真 : 産卵後

この個体は、近くの樹皮等で産卵した後、また網を張っているものと思われます。
やはり、この体勢が最も落ち着くのでしょうか...

写真 : ジョロウグモの卵のう

卵のうを糸で包んだ上に、木くずなどを貼りつけて“カムフラージュ”しています。
(カムフラージュは、多くの卵のうで普通に見られます)

写真 : 卵のう

日の光に透かしてみると...
糸の中にイチゴの実のような卵のうが見えます。
卵のうの中の卵が赤いので、イチゴの実のように見えるんですね。
なんと卵の数は数百個にも上るそうです。

写真 : 卵のうの中の卵が...

野鳥に見つかってついばまれたのでしょうか？
卵の多くが食べられてしまったようです...
このような危険を少しでも回避するために、命尽きるまで卵に寄り添う母グモもいる
のでしょうかね...















